

農家と消費者のふれあいを通じて 新しい形のまちづくりを目指したい



農村生活アドバイザー(安城地区)
の皆さん

地産地消の推進、生産者と消費者との交流、商店街の活性化を目的に始まった「まちなか産直市」。そこで中心となって活動しているのが農村生活アドバイザーの皆さんです。先月9日に大盛況のうちに第1回を終えた産直市の後に、碧海支部長・黒柳二三子さん(小川町)にお話を伺いました。

―会場のクリエーションプラザが満員になるほどの大盛況でしたが、準備した品が完売したので、まずはほとんどお客様の声が聞けたこともうれしかったです。今後も定着してほしいですね。

―農村生活アドバイザーとは？

県の認定を受けた農家の女性の団体で、地産地消や食育についての紙芝居を子どもたちに行ったり、男女共同参画に取り組んだりしながら農業の普及に努めています。安城地区のメンバーは現在11人。普段はみんなそれぞれ違う作物を扱っているから、種類も豊富で人も様々。でも、協力的でまとまりがあります。今回の産直市が終わった後も反省会を行って、売り方を変更するなど、よりよい方法を常に模索しています。

―長年、農業に携わっていて感じることは？

普段、何気なく食べているものにも生産者がとても気を使っているということを知ってほしいです。そして、今回の産直市などの場で、消費



初回の盛況ぶりに「手ごたえを感じた」と語る黒柳さん

まちなか産直市



◎とき 毎月第2・4土曜日
(来年2月10日(土)まで)
午前9時～正午

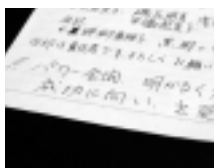
◎ところ クリエーションプラザ
※10月28日(土)はサンクスフェスティバル内(午前9時30分～午後4時／中心市街地交流広場)で開催。いずれも商品がなくなり次第終了。

また、11月18日(土)は軽トラ市として特別営業(午前9時～正午／中心市街地交流広場)します。

筆者のつぶやき

それぞれ農作業で忙しいためメンバーに連絡をとる時は主にファクスを用いるそうです。一部見せてもらうと、文末に手書きのメッセージが。「!! パワー全開 明るく元気 成功に向い 出発だー!!」。

メンバー間の結束力を垣間見た気がします。



者と顔を合わせることに、安心して食べていただくことができるようにしたいと思っています。

そして、こうした活動が中心市街地の活性化につながり、新しい形の健全なまちづくりができればいいですね。